

# 第25回 定時株主総会 招集ご通知

## 日時

2023年2月22日（水曜日）  
午前10時（午前9時開場）

## 場所

東京都豊島区西池袋一丁目6番1号  
ホテルメトロポリタン  
3階「富士」の間

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、株主の皆様におかれましては、当日のご来場をお控えいただき、書面又はインターネット等による事前の議決権行使を強くご推奨申し上げます。

また、お土産及びジュースの試飲のご用意はございません。

ご理解くださいますようお願い申し上げます。

## 決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 定款一部変更の件
- 第3号議案 取締役6名選任の件

## 目次

第25回定時株主総会招集ご通知	1
株主総会参考書類	6
事業報告	14
連結計算書類	27
計算書類	29
監査報告書	31

株 主 各 位

東京都豊島区高田二丁目17番22号  
イーサポートリンク株式会社  
代表取締役会長 堀 内 信 介

## 第25回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第25回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご通知申し上げます。

株主の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面又はインターネット等により事前に議決権を行使いただき、当日のご来場はお控えいただくよう、強くお願い申し上げます。

なお、書面又はインターネット等による議決権の行使は、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、3～5ページ「議決権行使のご案内」に従って2023年2月21日（火曜日）午後5時45分までに議決権を行使くださいますよう、お願い申し上げます。

敬 具

記

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 日 時          | 2023年2月22日（水曜日）午前10時（午前9時開場）   |
| 2. 場 所          | 東京都豊島区西池袋一丁目6番1号<br>ホテルメトロポリタン 3階「富士」の間<br><u>（末尾の「株主総会会場ご案内」をご参照ください。）</u>  |
| 3. 目的事項<br>報告事項 | 1. 第25期（2021年12月1日から2022年11月30日まで）<br>事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結<br>計算書類監査結果報告の件<br>2. 第25期（2021年12月1日から2022年11月30日まで）<br>計算書類報告の件 |
| 決議事項            | 第1号議案 剰余金処分の件<br>第2号議案 定款一部変更の件<br>第3号議案 取締役6名選任の件   |

以 上

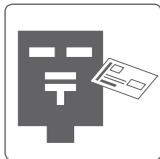
- ~~~~~
- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
  - ◎株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.e-supportlink.com/>) に掲載させていただきます。
  - ◎次の事項につきましては、法令及び当社定款第16条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.e-supportlink.com/>) に掲載しておりますので、本招集ご通知には記載しておりません。
    - ①事業報告の業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況
    - ②連結計算書類の連結株主資本等変動計算書
    - ③連結計算書類の連結注記表
    - ④計算書類の株主資本等変動計算書
    - ⑤計算書類の個別注記表
- したがって、本招集ご通知に記載しております事業報告、連結計算書類及び計算書類は、会計監査人及び監査役が会計監査報告及び監査報告の作成に際して監査した事業報告、連結計算書類及び計算書類の一部であります。

**【新型コロナウイルス感染症対策について】**

- ◎新型コロナウイルス感染症予防及び拡散防止のため、会場におきましては次の対策その他必要な措置を実施いたします。
  - ・ご来場の株主様は、マスクのご持参及びご着用をお願い申し上げます。マスクをご着用いただけない場合は、ご入場をお断りさせていただきます。
  - ・会場入り口付近にアルコール消毒液を設置いたします。ご入場時には、ご協力をお願いいたします。
  - ・ご入場時に検温をさせていただき、37.5度以上の発熱が確認された場合は、ご入場をお断りさせていただきます。37.5度未満であっても、咳などの症状が認められる場合は、ご入場をお断りする場合がございます。
  - ・会場にて体調不良と見受けられる株主様に運営スタッフがお声がけし、ご退出をお願いすることがあります。
  - ・会場内は席の間隔を十分に広げて、座席数を減らす予定です。満席の場合は、ご入場をお断りすることがございます。
  - ・出席役員及び運営スタッフは、検温及び体調確認のうえ、マスク着用にて対応させていただきます。
  - ・今後の状況により株主総会の運営に大きな変更が生ずる場合は、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.e-supportlink.com/>) でお知らせいたしますのでご確認ください。

## 議決権行使のご案内

### 事前に議決権を行使いただく場合



#### 郵送によるご行使

行使期限 2023年2月21日(火曜日) 午後5時45分必着

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、行使期限までに到着するようご返送ください。



#### インターネット等によるご行使

詳細は次ページをご覧ください。

行使期限 2023年2月21日(火曜日) 午後5時45分まで

当社の指定する議決権行使ウェブサイトアクセスしていただき、行使期限までに議案に対する賛否をご入力ください。なお、インターネットで複数回数、議決権を行使された場合は、最後の行使を有効な行使としてお取り扱いいたします。

書面とインターネットにより、重複して議決権を行使された場合は、インターネットの行使を有効な行使としてお取り扱いいたします。

#### 「スマート行使」について

同封の議決権行使書用紙に記載された「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード」をお読み取りいただくことにより、「議決権行使コード」および「パスワード」が入力不要でアクセスできます。

※上記方法での議決権行使は1回に限ります。

### 当日ご出席される場合



#### 株主総会日時

2023年2月22日(水曜日) 午前10時開催  
(受付開始：午前9時00分)

同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。  
株主総会当日は、資源節約のため、この「招集ご通知」をお持ちくださいますようお願い申し上げます。



# 「スマート行使」によるご行使

議決権行使コードおよびパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトへログインすることができます。

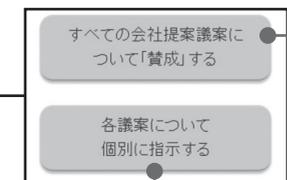
## 1 スマートフォン用議決権行使ウェブサイトへアクセス

同封の議決権行使書用紙の右下「スマートフォン用議決権行使ウェブサイトログインQRコード」をスマートフォンかタブレット端末で読み取ります。



## 2 議決権行使方法を選ぶ

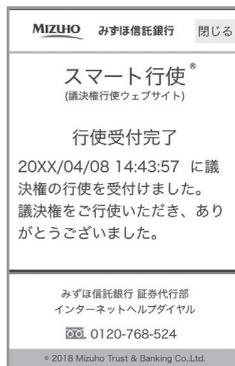
表示されたURLを開くと議決権行使ウェブサイト画面が開きます。議決権行使方法は2つあります。



**3** 各議案について個別に指示する場合、画面の案内に従って各議案の賛否をご入力ください



**4** 確認画面で問題なければ「この内容で行使する」ボタンを押して行使完了



一度議決権を行使した後で行使内容を変更される場合、再度QRコード®を読み取り、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」「パスワード」をご入力いただく必要があります。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



# インターネットによるご行使

## 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください

\*\*\* 議決権行使ウェブサイト \*\*\*

- 本サイトのご利用にあたってはご登録が必要となります。ご申し込みいただける場合は、「次へすすむ」ボタンよりご利用ください。
- 会員登録の際は、Webブラウザを閉じてください。

**次へすすむ**

---

【利用に際しての電子署名メニュー】

- 利用に際しての電子署名の操作方法につきましては
- メールアドレスの変更または
- ご登録メールアドレスの変更または

議決権行使ウェブサイト



<https://soukai.mizuho-tb.co.jp/>

■「次へすすむ」をクリック

## 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください

\*\*\* ログイン \*\*\*

- 「議決権行使コード」を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- 「議決権行使コード」は「議決権行使書用紙」に記載されています。  
（電子メニューにより投票と書面投票が可能な場合があります。  
詳細は電子メニューに記載されています。）

議決権行使コード:

**次へ**   **閉じる**

■「議決権行使コード」\*を入力し、「次へ」をクリック

## 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください

\*\*\* パスワード変更 \*\*\*

- パスワードを変更してください。
- 「議決権行使書用紙」に記載の「パスワード」と異なる「パスワード」を入力し、「登録ボタン」をクリックしてください。
- 「パスワード」が同一の場合は、右のリンクをクリックしてください。

議決権行使書用紙に記載の「パスワード」:  パスワードを再入力してください

ご使用になる新しいパスワード:   
(確認のためもう一度)

※必ず両方のパスワードを一致させてください。  
※必ず半角英数字のみを入力してください。  
※半角英数字のみの場合、数字や記号で満たすことは  
一切いたしませんので、新しいパスワードをお忘れにならないようご注意ください。

**登 録**

■「初期パスワード」\*を入力し、実際にご使用になる新しいパスワードを設定してください

■「登録」をクリック

※「議決権行使コード」「初期パスワード」は、お手元の議決権行使書用紙の所有株式数が印字されている面の左下に記載されています。

※インターネット等による議決権行使は、当社の指定する議決権行使ウェブサイトをご利用いただくことによるのみ可能です。議決権行使ウェブサイトをご利用いただく際のプロバイダおよび通信事業者の料金（接続料金等）は、株主様のご負担となります。

## 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などが不明な場合は、右記にお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部 インターネットヘルプダイヤル

0120-768-524 (受付時間：午前9時～午後9時)

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

剰余金の処分につきましては、業績の改善がみられたことから、次のとおり復配いたしたいと存じます。

- (1) 配当財産の種類  
金銭といたします。
- (2) 配当財産の割り当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金5円 総額22,122,295円
- (3) 剰余金の配当が効力を生ずる日  
2023年2月24日

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 提案の理由

#### (1) 事業目的の追加に伴う変更

当社の今後の事業展開に備えるため、現行定款第2条（目的）に事業目的の追加を行い、号文の新設に伴い号数の繰下げを行うものであります。

#### (2) 株主総会資料の電子提供制度導入に伴う変更

「会社法の一部を改正する法律」（令和元年法律第70号）附則第1条ただし書きに規定する株主総会資料の電子提供制度が2022年9月1日に施行されたことに伴い、次のとおり当社定款を変更するものであります。

- ①変更案第16条第1項は、株主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとる旨を定めるものであります。
- ②変更案第16条第2項は、書面交付請求をした株主に交付する書面に記載する事項の範囲を限定するための規定を設けるものであります。
- ③株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供の規定（現行定款第16条）は不要となるため、これを削除するものであります。
- ④上記の新設・削除に伴い、経過措置等に関する附則を設けるものであります。

### 2. 変更の内容

変更の内容は、次のとおりであります。

（下線は変更部分を示します。）

現行定款	変更案
<p>（目的） 第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。 1. ～15. &lt;条文省略&gt; &lt;新設&gt; 16. 前各号に付帯する一切の業務</p> <p>第3条～第15条 &lt;条文省略&gt;</p> <p>（株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供） 第16条 当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類、事業報告、計算書類および連結計算書類に記載または表示をすべき事項に係る情報を、法務省令に定めるところに従いインターネットを利用する方法で開示することにより、株主に対して提供したものとみなすことができる。</p>	<p>（目的） 第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。 1. ～15. &lt;現行どおり&gt; <u>16. 農作物の生産</u> 17. 前各号に付帯する一切の業務</p> <p>第3条～第15条 &lt;現行どおり&gt;</p> <p>&lt;削除&gt;</p>

現行定款	変更案
<p data-bbox="281 158 370 182">&lt;新設&gt;</p> <p data-bbox="107 474 443 498">第17条～第43条 &lt;条文省略&gt;</p> <p data-bbox="281 530 370 554">&lt;新設&gt;</p>	<p data-bbox="754 122 829 146">変更案</p> <p data-bbox="572 158 773 182"><u>(電子提供措置等)</u></p> <p data-bbox="572 185 1012 288">第16条 当社は、株主総会の招集に際し、株主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとるものとする。</p> <p data-bbox="572 291 1012 452">2 当社は、電子提供措置をとる事項のうち法務省令で定めるものの全部または一部について、議決権の基準日までに書面交付請求した株主に対して交付する書面に記載しないことができる。</p> <p data-bbox="572 474 930 498">第17条～第43条 &lt;現行どおり&gt;</p> <p data-bbox="572 530 650 554"><u>(附則)</u></p> <p data-bbox="572 557 1012 687">1. 2022年9月1日から6か月以内の日を株主総会の日とする株主総会については、変更前定款第16条（株主総会参考書類等のインターネット開示とみなし提供）は、なお効力を有する。</p> <p data-bbox="572 690 1012 793">2. 本附則は、2022年9月1日から6か月を経過した日または前項の株主総会の日から3か月を経過した日のいずれか遅い日後にこれを削除する。</p>

### 第3号議案 取締役6名選任の件

本総会終結の時をもって、現在の取締役全員（5名）が任期満了となります。つきましては、経営の透明性の向上を図るため社外取締役1名を増員することとし、取締役6名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名		当社における地位及び担当
1	ほり うち しん すけ 堀 内 信 介	再任	代表取締役会長兼CEO
2	あい はら とおる 相 原 徹	再任	取締役 社長執行役員兼COO
3	ふか つ ひろ ゆき 深 津 弘 行	再任	取締役 専務執行役員 管理本部長兼人事部長
4	ほそ かわ まさ ひこ 細 川 昌 彦	再任 社外取締役 独立役員	社外取締役
5	おお しま たか ゆき 大 島 孝 之	再任 社外取締役 独立役員	社外取締役
6	とよ しま まさ あき 豊 島 正 明	新任 社外取締役 独立役員	—

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式数
1	ほり うち しん すけ 堀内 信介 (1955年1月11日生)	1977年3月 (株)トーカン入社 1998年10月 (株)ケーアイ・フレッシュアクセス取締役副社長 2000年12月 当社取締役 2002年4月 当社取締役兼COO 2004年2月 当社代表取締役社長 2015年12月 当社代表取締役社長 営業部門担当 2016年12月 当社代表取締役社長 2022年2月 当社代表取締役会長兼CEO (現任)	25,000株
	取締役候補者とした理由	堀内氏は、主に流通業界、食品卸売業に関する豊富な業務経験と幅広い見識を有しております。また、2000年より当社取締役として企業経営に従事し、2004年代表取締役社長就任以降、当社の成長に向けた事業戦略を積極的に推進する等、経営者としての知識・経験を活かし、職務を遂行していることから適切な人材と判断し、引き続き当社の取締役として選任をお願いするものであります。	
2	あい はら とおる 相原 徹 (1960年1月14日生)	1984年4月 かながわ生活協同組合入職 1997年3月 協和薬品(株)入社 1998年10月 (株)ケーアイ・フレッシュアクセス入社 2007年4月 同社執行役員 サービスセンター本部長 2013年4月 同社常務執行役員 商品・物流部門長 2018年4月 同社専務執行役員 物流統括部門長 2018年11月 当社入社 2019年2月 当社取締役兼専務執行役員 経営企画・BPO事業担当 2019年6月 当社取締役兼専務執行役員 経営企画担当 2019年12月 当社取締役兼専務執行役員 SCM事業部・リテールサポート事業部・流通インフラサービス事業部・戦略事業部担当 2020年12月 当社取締役兼専務執行役員 事業推進本部長 2022年2月 当社取締役社長執行役員兼COO (現任)	一株
	取締役候補者とした理由	相原氏は、長年にわたり生鮮農産物・加工品卸売会社の執行役員として職務に携わっており、その経歴を通じて培った流通業界、食品卸売業に関する豊富な業務経験と幅広い見識を有していることから適切な人材と判断し、引き続き当社の取締役として選任をお願いするものであります。	

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する 当社の 株式数
3	ふか っ ひろ ゆき 深津 弘行 (1966年6月7日生)	1993年10月 協和薬品(株)入社 1998年10月 (株)ケーアイ・フレッシュアクセス入社 2003年4月 当社入社 2004年6月 当社業務本部業務統括部長 2005年2月 当社執行役員 業務本部業務統括部長 2009年12月 当社執行役員 営業開発グループマネージャー 2015年12月 当社執行役員 経営企画室長 2017年2月 当社取締役兼常務執行役員 経営企画室長 2019年6月 当社取締役兼常務執行役員 戦略事業部長 2021年12月 当社取締役兼常務執行役員 アグリビジネス本部長 事業企画推進室長 2022年2月 当社取締役専務執行役員 経営統括本部長 兼管理本部長 2022年8月 当社取締役専務執行役員 経営統括本部長 兼管理本部長兼人事部長 2023年1月 当社取締役専務執行役員 管理本部長兼人事部長 (現任)	3,100株
	取締役候補者とした理由	深津氏は、主に流通業界に関する豊富な業務経験と幅広い見識を有しております。当社に入社以来、業務受託事業を中心に業務全般を熟知するとともに、営業業務・経営企画業務に従事し、豊富な経験と実績を有していることから適切な人材と判断し、引き続き当社の取締役として選任をお願いするものであります。	
4	ほそ かわ まさ ひこ 細川 昌彦 (1955年1月20日生)	1977年4月 通商産業省(現経済産業省)入省 1998年6月 同省通商政策局米州課長 2002年7月 同省貿易管理部長 2003年7月 同省中部経済産業局長 2004年8月 日本貿易振興機構ニューヨーク・センター所長 2006年9月 (社)日本鉄鋼連盟常務理事 2008年9月 中京大学経済学部教授 2009年9月 中部大学特任教授(中部高等学術研究所) 2017年2月 当社社外監査役 2019年2月 当社社外取締役(現任) 2020年9月 明星大学経営学部教授(現任)	一株
	社外取締役候補者とした理由及び期待される役割	細川氏は、国際情勢に精通し、官公庁における豊富な業務経験や会社経営の顧問を通じた経験、大学の経営学部教授としての経営に関する専門的な知識・経験等に基づいた幅広い見識を有しております。その知識と経験、見識を当社の経営に活かし、取締役の職務執行に対する監督、助言等をいただくことで、より透明性の高い経営を実現できるものと期待して、引き続き社外取締役としての選任をお願いするものであります。	

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式数
5	おおしま たか ゆき <b>大島 孝之</b> (1955年4月1日生)	1979年3月 (株)主婦の店秩父店(現(株)ベルク) 入社 1994年5月 同社取締役 店舗運営部長 2002年5月 同社常務取締役 店舗運営部長 2014年4月 同社代表取締役専務 2014年5月 同社代表取締役社長 2020年5月 同社相談役(現任) 2021年2月 当社社外取締役(現任) 2021年6月 (株)カクヤスグループ社外取締役(現任)	一株
	社外取締役候補者とした理由及び期待される役割	大島氏は、長年にわたり株式会社ベルクの取締役及び代表取締役を務め、経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。その経験と見識を当社の経営に活かし、取締役の職務執行に対する監督、助言等をいただけるものと期待して、引き続き社外取締役としての選任をお願いするものであります。	
6	※ とよしま まさ あき <b>豊島 正明</b> (1952年1月1日生)	1974年3月 ジャスコ(株)(現イオン(株)) 入社 2002年5月 同社取締役 2003年5月 同社執行役 2005年5月 同社常務執行役 2006年5月 同社専務執行役 2008年8月 同社執行役GMS事業最高経営責任者兼グループ財務最高責任者 2010年5月 同社執行役ディベロッパー事業最高経営責任者 2011年3月 同社専務執行役ディベロッパー事業最高経営責任者 2011年5月 同社取締役兼専務執行役ディベロッパー事業最高経営責任者 2012年3月 同社取締役兼専務執行役社長補佐事業開発最高責任者 2014年3月 同社取締役兼専務執行役事業開発最高責任者兼都市シフト推進責任者 2015年2月 同社取締役兼執行役事業開発担当 2016年3月 イオンマーケット(株)代表取締役会長 2017年5月 イオン(株)顧問 2018年5月 (株)ケーヨー取締役 2022年6月 (株)ノジマ顧問(現任)	一株
	社外取締役候補者とした理由及び期待される役割	豊島氏は、これまでイオン株式会社の取締役及びイオンマーケット株式会社の代表取締役を務め、企業経営や財務等に関する豊富な経験と幅広い見識を有しております。その経験と見識を当社の経営に活かし、取締役の職務執行に対する監督、助言等をいただけるものと期待して、社外取締役として選任をお願いするものであります。	

- (注) 1. ※印は新任の取締役候補者であります。
- 各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
  - 細川昌彦氏、大島孝之氏及び豊島正明氏は、社外取締役候補者であります。
  - 細川昌彦氏の社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって4年となります。また、同氏は、過去に当社の社外監査役でありました。
  - 大島孝之氏の社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって2年となります。
  - 当社は、現在、細川昌彦氏及び大島孝之氏との間で、会社法第423条第1項の責任について、その職務を行うにつき善意でありかつ重大な過失がなかったときは、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として損害賠償責任を負担するものとする旨の責任限定契約を締結しております。両氏の再任が承認された場合、当社は両氏との間の責任限定契約を継続する予定であります。また、豊島正明氏の選任が承認された場合、当社は同氏との間で、同様の責任限定契約を締結する予定であります。
  - 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる法律上の損害賠償金や争訟費用等の損害を補填することとしており、各候補者が取締役に就任した場合は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。なお、当該保険契約は、2023年5月に同内容で更新する予定であります。
  - 当社は、細川昌彦氏及び大島孝之氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。両氏の再任が承認された場合には、当社は引き続き両氏を独立役員とする予定であります。また、豊島正明氏につきましても、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏の選任が承認された場合には、独立役員として届け出る予定であります。

### 【ご参考】株主総会後の取締役会のスキル・マトリックス

本招集ご通知記載の候補者を原案どおりご選任いただいた場合、今回非改選の監査役を含めて、当社の取締役会は次のスキルを持ったメンバーにより構成されることになります。

氏名		企業経営	グローバル	管理・財務・ 経営企画	ICTビジネス	ESG・ サステナビ リティ	営業・ マーケティ ング
取締 役	堀内 信介	●			●		●
	相原 徹	●			●		●
	深津 弘行	●	●	●		●	
	細川 昌彦	●	●			●	
	大島 孝之	●				●	●
	豊島 正明	●	●	●			●
監 査 役	鈴庄 一喜	●	●	●			●
	大西 洋	●	●				●
	白石 真澄	●		●		●	

(注) 上記一覧表は、各氏の経験などを踏まえ、より専門的な知識や経験を有する分野を表しており、全ての知識や経験を表すものではありません。

以 上

(提供書面)

## 事業報告

(2021年12月1日から  
2022年11月30日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当連結会計年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の対策について経済活動との両立による新たな局面を迎え、景気への影響を見極めながら経済対策が図られ、景気は緩やかな持ち直しが続いております。一方、国際情勢の緊張から、資源価格の上昇や物価高、金融市場の動向などにより消費行動への影響が懸念され、引き続き不透明な状況が予想されるなど、その動向を注視する必要があります。

当社グループが主に事業を展開する生鮮流通業界においては、従来続く人口減少等の社会構造の変化に加え、感染症や国際情勢など新たな環境変化に起因する課題への対応からデジタルトランスフォーメーション（DX）領域を中心とした構造的転換への投資意欲が強く、事業環境は大きく変化してきております。

また、スーパーマーケットを中心とした小売量販店においては、光熱費や資材価格の上昇をはじめとして様々な販管費の上昇や、店舗運営の効率化や商品調達最適化といった課題に対し、キャッシュレス決済やセルフレジの導入などによるデジタル化・効率化を推進する一方、移動スーパーや宅配など新たな店舗運営形態の取り組みを模索しております。ライフスタイルの多様化や感染症対策における行動様式の変化、節約志向など生活者ニーズが広がりを見せていることもあり、対応すべき課題が蓄積していると認識しております。

加えて、当社が従来主力とする輸入青果物のオペレーションを取り巻く環境については、円安と資源高の同時進行や物流の混乱により産地における関連事業者や輸入商社等の収益環境の悪化が懸念されます。また、国内の農業・生産サイドにおいても生産者の高齢化や後継者問題、気候変動による主要産地からの農産物の供給の不安定化など課題を抱えております。

これらの課題の抜本的な解決と、社会的要請である脱炭素社会の実現をはじめとした環境に配慮した持続可能な取り組みが必要となります。

このような環境にあって当社グループは、当期を構造改革期と位置付け、事業構造の見直しと組織改革に取り組んでまいりました。既存事業は収益基盤を強化するとともに、生鮮流通における「小商圏」「地域活性化」を軸にしたビジネスの確立に取り組んできた結果、収益を大きく回復することができました。

変化の著しい環境において、持続可能な社会の実現に対し、生鮮流通における脱炭素や食品ロスなど環境問題、地域に根ざした流通、農業生産から販売に至るまでの一貫したサポートなど、新たな事業領域における取り組みを続け、企業の成長につなげてまいります。

以上の結果、売上高につきましては、48億50百万円（前連結会計年度比6.5%減）、営業利益は2億14百万円（前連結会計年度は営業損失95百万円）、経常利益は2億17百万円（前連結会計年度は経常損失1億26百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は1億55百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失9億42百万円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### i) オペレーション支援事業

当事業セグメントにおける「輸入青果物サプライチェーン事業」及び「生鮮MDシステム事業」は、安定収益基盤を拡充するとともに、運営の効率化に努めてまいりました。輸入青果物サプライチェーン事業では、事業拠点の統廃合や人員の再配置、受託業務オペレーションの生産性向上の取り組みにより運営体制を再構築し、収益力向上に注力しました。大手チェーンストア向けの生鮮MDシステム事業は、大手量販店グループの各社への導入を進め規模拡大を追求する一方、機能の追加開発や改修によりユーザー利便性を高めることで、顧客企業との取引強化を図ってまいりました。「青果売場構築支援事業」についても、導入及び運営において効率化を図り、今後の事業拡大への取り組みを継続しております。

以上の結果、売上高32億38百万円（前連結会計年度比15.9%減）、営業利益12億19百万円（同14.2%増）となりました。

#### ii) 農業支援事業

「りんご・国産青果物販売事業」については、令和3年度産のりんごの全国的な収穫量の減少を受け、集荷数量を確保できず前年を下回る結果となりましたが、さつまいもなど新たな商材の取り扱いを開始し、その他の国産青果物の取引が順調に推移したため、「りんご・国産青果物販売事業」全体の売上高は伸長しました。子会社の「有機農産物販売事業」については、主力となるバナナ等の輸入有機商材において一時供給網の混乱や品質不良の問題があったものの持ち直した他、加工品等のスポット販売が寄与し、事業全体では売上高は伸長しました。

以上の結果、売上高16億12百万円（前連結会計年度比20.4%増）、営業損失1億27百万円（前連結会計年度は営業損失1億18百万円）となりました。

② 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は、1億63百万円であり、es-Marchéシステム、りんご選果機及び生鮮MDシステムなどに投資をいたしました。

③ 資金調達の状況

当社グループの所要資金として、金融機関より長期借入金として50百万円の調達を行いました。

④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第 22 期 (2019年11月期)	第 23 期 (2020年11月期)	第 24 期 (2021年11月期)	第 25 期 (当連結会計年度) (2022年11月期)
売 上 高 (千円)	5,562,119	5,653,207	5,187,468	4,850,869
経 常 利 益 又 は 経 常 損 失 (△) (千円)	253,759	235,869	△126,831	217,670
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失 (△) (千円)	89,125	116,937	△942,050	155,408
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 (△) (円)	20.14	26.43	△212.92	35.12
総 資 産 (千円)	5,622,591	5,535,533	6,123,603	5,490,115
純 資 産 (千円)	4,052,053	4,147,177	3,209,774	3,371,394
1株当たり純資産額 (円)	915.82	937.33	725.46	761.99

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、期中平均発行済株式総数から期中平均自己株式数を控除した株式数により、1株当たり純資産額は期末日現在の発行済株式総数から期末自己株式数を控除した株式数により算出しております。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当連結会計年度に係る各数値については、当該会計基準を適用した後の数値となっております。

### ② 当社の財産及び損益の状況

区 分	第 22 期 (2019年11月期)	第 23 期 (2020年11月期)	第 24 期 (2021年11月期)	第 25 期 (当事業年度) (2022年11月期)
売 上 高 (千円)	5,171,693	5,162,089	4,645,622	4,294,949
経 常 利 益 又 は 経 常 損 失 (△) (千円)	294,195	241,465	△90,060	200,265
当 期 純 利 益 又 は 当 期 純 損 失 (△) (千円)	111,876	25,797	△902,491	139,789
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 (△) (円)	25.29	5.83	△203.98	31.59
総 資 産 (千円)	5,535,029	5,522,591	6,086,589	5,465,508
純 資 産 (千円)	4,165,581	4,170,880	3,258,224	3,395,955
1株当たり純資産額 (円)	941.48	942.69	736.41	767.54

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、期中平均発行済株式総数から期中平均自己株式数を控除した株式数により、1株当たり純資産額は期末日現在の発行済株式総数から期末自己株式数を控除した株式数により算出しております。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しており、当事業年度に係る各数値については、当該会計基準を適用した後の数値となっております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社の状況  
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
株式会社シェアガーデン ホールディングス	50百万円	56.84%	グループの経営戦略策定、 経営管理
株式会社オーガニック パートナーズ	10百万円	56.84% (56.84%)	有機・特別栽培農産物等 の企画開発、卸販売及び 輸出入事業 店舗、販売に関する企画 立案とコンサルティング 事業

- (注) 1. 株式会社オーガニックパートナーズの株式は、株式会社シェアガーデンホールディングスを通じての間接所有となっております。
2. 当社の議決権比率欄の（ ）内は間接所有割合で、内数で記載しております。

### (4) 対処すべき課題

当社グループは、「全ては生産者と生活者のために」を経営理念に掲げ、「食の流通情報を活用し、生産者の暮らしを支え、生活者の食生活に貢献する」企業グループを目指し、事業を展開しております。

なお、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しており、当社の目指す成長軌道を実現していくため、青果物サプライチェーンにおける持続的成長を目指し、事業構造の最適化、強靱な企業体質の確立を図っております。

これらを実現するために、以下の課題に取り組んでまいります。

- ① 青果物流通における「イーサポートリンク」ブランドの更なる浸透と深化  
当社グループは、青果物流通システムの提供と業務受託サービスの提供を行ってまいりましたが、そこで培ったノウハウや経験を青果物流通にかかわる多くの事業者とともにサプライチェーンの効率化に向けたサービスの拡大、機能の強化を目指します。
- ② 生産性の高いオペレーション体制の実現  
当社グループは、業務の生産性を向上させるため、作業プロセスの見直しを行い、一部の業務のシステム化やローコストオペレーションの徹底を図り、生産性向上に努めております。さらに、業務受託について適正な人員体制、拠点体制に見直しを行い、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の

導入による業務の自動化を図り、一層のオペレーションコストの削減に取り組んでまいります。

### ③ 環境に配慮した事業領域の拡大

事業環境が大きく変化する中、脱炭素や食品ロスなどの環境問題、地域内循環やサプライチェーン短縮化、物流機能の効率化などの問題解決に当社グループのノウハウを活かせるものと認識しており、関係する事業者と問題解決に取り組む、持続可能な新たな事業領域の拡大を目指します。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## (5) 主要な事業内容 (2022年11月30日現在)

事業区分	事業内容
オペレーション支援事業	生鮮青果物流通の商流・物流をサポートする情報システムの提供と生鮮青果物流通を構成する事業者に対する業務代行サービスの提供及び青果売場構築支援サービスの提供を行っております。
農業支援事業	りんご・国産青果物の販売及び有機農産物等の仕入販売を行っております。

## (6) 主要な営業所 (2022年11月30日現在)

### ① 当社の主要な営業所

名称	所在地
本社	東京都豊島区
札幌事業所	北海道札幌市
神戸事業所	兵庫県神戸市
弘前センター	青森県弘前市

### ② 子会社

名称	所在地
株式会社シェアガーデンホールディングス	東京都豊島区
株式会社オーガニックパートナーズ	東京都豊島区

**(7) 使用人の状況**（2022年11月30日現在）

① 企業集団の使用人の状況

使用人数	前連結会計年度末比増減
149名	97名減

（注）使用人数には、契約社員、パートタイマー及び派遣社員は含まれておりません。

② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
145名	96名減	41.3歳	9.9年

（注）使用人数には、契約社員、パートタイマー及び派遣社員は含まれておりません。

**(8) 主要な借入先の状況**（2022年11月30日現在）

借入先	借入額
株式会社三井住友銀行	366,656千円
株式会社三菱UFJ銀行	375,005千円
株式会社きらぼし銀行	417,493千円

**(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項**

特記すべき重要な事項はありません。

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2022年11月30日現在)

- ① 発行可能株式総数 10,700,000株
- ② 発行済株式の総数 4,424,800株
- ③ 株主数 17,161名
- ④ 大株主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
株 式 会 社 フ ェ ー マ イ ン ド	446,200株	10.08%
株 式 会 社 協 和	307,500株	6.95%
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	188,300株	4.25%
株 式 会 社 フ ォ ー カ ス シ ス テ ム ズ	102,100株	2.30%
上 田 八 木 短 資 株 式 会 社	81,000株	1.83%
INTERACTIVE BROKERS LLC	76,700株	1.73%
J. P. MORGAN SECURITIES PLC	64,700株	1.46%
福 間 美 貴 恵	52,900株	1.19%
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	46,217株	1.04%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	30,254株	0.68%

(注) 持株比率は、自己株式 (341株) を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### (3) 会社役員の状況

#### ① 取締役及び監査役の状況（2022年11月30日現在）

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役会長	堀内 信介	CEO
取締役	相原 徹	社長執行役員兼COO
取締役	深津 弘行	専務執行役員 経営統括本部長兼管理本部長兼人事部長
取締役	細川 昌彦	明星大学経営学部教授
取締役	大島 孝之	(株)ベルク相談役、(株)カクヤスグループ社外取締役
常勤監査役	鈴庄 一喜	公益財団法人Uビジョン研究所監事
監査役	大西 洋	日本空港ビルデング(株)取締役副社長執行役員 小松マテール(株)社外取締役
監査役	白石 真澄	関西大学政策創造学部教授、菱洋エレクトロ(株)社外取締役 (株)ミックニ社外取締役

- (注) 1. 取締役細川昌彦氏及び大島孝之氏は、社外取締役であります。  
 2. 監査役鈴庄一喜氏、大西洋氏及び白石真澄氏は、社外監査役であります。  
 3. 監査役鈴庄一喜氏は、学校法人においてCFO（最高財務責任者）の経験があり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。  
 4. 当社は、取締役細川昌彦氏及び大島孝之氏並びに監査役鈴庄一喜氏、大西洋氏及び白石真澄氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。  
 5. 当事業年度末日後に生じた取締役の担当の異動は、次のとおりであります。

氏名	変更後	変更前	異動年月日
深津 弘行	取締役専務執行役員 管理本部長兼人事部長	取締役専務執行役員 経営統括本部長兼管理本部長兼人事部長	2023年1月1日

#### ② 事業年度中に退任した取締役

氏名	退任日	退任事由	退任時の地位、担当及び重要な兼職の状況
仲村 淳	2022年2月22日	任期満了	取締役副社長 管理本部長
森田 和彦	2022年2月22日	任期満了	取締役副社長
柴田 好久	2022年2月22日	任期満了	取締役 専務執行役員 事業推進本部事業管理室長

③ 責任限定契約の内容の概要

当社は、非業務執行取締役及び監査役全員と会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

④ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる法律上の損害賠償金や争訟費用等の損害を当該保険契約により補填することとしております。

当該保険契約の被保険者は当社及び子会社の取締役、監査役、管理職・監督者の地位にある従業員等であり、全ての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。

⑤ 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等

イ. 役員報酬等の内容の決定に関する方針等

当社は、2021年2月25日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針等を決議しております。また、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、報酬委員会が原案を作成し決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っているため、取締役会も基本的にその答申を尊重し決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は次のとおりであります。

a. 基本方針

当社の取締役の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するような報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適切な水準とすることを基本方針とする。具体的に取締役の報酬は、固定報酬としての基本報酬にて支払うこととする。

b. 基本報酬（金銭報酬）の個人別の報酬等の額の決定に関する方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

当社の取締役の基本報酬は、月例の固定報酬とし、地位、職責、在任年数に応じて他社水準、当社の業績、従業員給与の水準をも考慮しながら、総合的に勘案して決定するものとする。

c. 金銭報酬の額、業績連動報酬等の額又は非金銭報酬等の額の取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

取締役の個人別の報酬等の額に対する割合は、固定報酬のみとする。業績向上等により業績連動報酬を導入する際は、報酬委員会において比率の検討を行うこととする。

d. 役員個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

個人別の報酬額については、報酬委員会にて具体的な報酬内容について審議し、その総額を取締役に決議する。

ロ. 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の金銭報酬の額は、2002年2月26日開催の第4回定時株主総会において年額200,000千円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は9名です。

監査役の金銭報酬の額は、2006年2月24日開催の第8回定時株主総会において年額40,000千円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は3名です。

ハ. 取締役及び監査役の報酬等の総額

区 分	支給人員	報酬等の総額
取締役 (うち社外取締役)	8名 (2名)	96,890千円 (14,004千円)
監査役 (うち社外監査役)	3名 (3名)	22,008千円 (22,008千円)
合計	11名	118,898千円

- (注) 1. 上記の支給人員には、2022年2月22日開催の第24回定時株主総会の終結の時をもって退任した取締役3名を含んでおります。
2. 取締役及び監査役の基本報酬は、固定報酬のみで構成され、業績連動報酬等及び非金銭報酬等に係る部分はありません。

## ⑥ 社外役員に関する事項

### イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・社外取締役細川昌彦氏は、明星大学経営学部の教授を兼務しております。なお、当社と同大学との間に特別の利害関係はありません。
- ・社外取締役大島孝之氏は、株式会社ベルクの相談役及び株式会社カクヤスグループの社外取締役を兼務しております。なお、当社と各社との間に特別の利害関係はありません。
- ・社外監査役鈴庄一喜氏は、公益財団法人Uビジョン研究所の監事を兼務しております。なお、当社と同法人との間に特別の利害関係はありません。
- ・社外監査役大西洋氏は、日本空港ビルデング株式会社の取締役副社長執行役員及び小松マテール株式会社の社外取締役を兼務しております。なお、当社と各社との間に特別の利害関係はありません。
- ・社外監査役白石真澄氏は、関西大学政策創造学部の教授、菱洋エレクトロ株式会社の社外取締役及び株式会社ミクニの社外取締役を兼務しております。なお、当社と同大学及び各社との間に特別の利害関係はありません。

### ロ. 当事業年度における主な活動状況

		出席状況、発言状況及び社外取締役に期待される役割に関して行った職務の概要
取締役	細川昌彦	当事業年度に開催された取締役会17回のうち12回に出席いたしました。主に官公庁を通じて培った豊富な業務経験・見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っており、当社の社外取締役として期待される役割を適切に果たしております。
取締役	大島孝之	当事業年度に開催された取締役会17回のうち16回に出席いたしました。主に企業経営に関する豊富な経験・見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っており、当社の社外取締役として期待される役割を適切に果たしております。
監査役	鈴庄一喜	当事業年度に開催された取締役会17回、監査役会13回の全てに出席いたしました。主に企業の管理部門で培われた豊富な業務経験・見地から適宜、必要な発言を行っております。
監査役	大西洋	当事業年度に開催された取締役会17回のうち15回に出席し、監査役会13回のうち12回に出席いたしました。主に小売・百貨店業界での企業経営者としての豊富な経験と幅広い見識を活かし、適宜、必要な発言を行っております。
監査役	白石真澄	当事業年度に開催された取締役会17回、監査役会13回の全てに出席いたしました。主に大学教授としての経済・社会に関する豊富な経験と幅広い見識を活かし、適宜、必要な発言を行っております。

(注) 当社は、社外役員がやむを得ず取締役会及び監査役会を欠席する場合においても、事前に資料を送付し、議案等に対する意見を受け取締役会及び監査役会へ伝達できる環境を整えております。

#### (4) 会計監査人の状況

① 名称 三優監査法人

② 報酬等の額

	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	21,000千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	21,000千円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 会計監査人の報酬等の額の同意について

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、前期の監査実績、会計監査人の職務遂行状況、監査計画における監査時間、報酬額の見積りなどを検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

④ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

⑤ 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

⑥ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

#### (5) 会社の支配に関する基本方針

会社の支配に関する基本方針については、重要な事項と認識し継続的な検討を行っておりますが、現状の財政状態、経営成績の推移及び株主構成等に鑑みて、現時点で具体的な買収防衛策は導入していません。

(注) 本事業報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

# 連結貸借対照表

(2022年11月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	4,442,495	流動負債	992,425
現金及び預金	3,294,984	買掛金	263,821
売掛金	799,172	短期借入金	50,000
有価証券	99,995	1年内返済予定の長期借入金	320,016
商品及び製品	19,074	リース債務	6,347
仕掛品	3,980	未払金	194,657
原材料及び貯蔵品	11,060	未払法人税等	21,757
その他	214,259	その他	135,826
貸倒引当金	△32	固定負債	1,126,295
固定資産	1,047,620	長期借入金	789,138
有形固定資産	176,176	リース債務	10,437
建物及び構築物	14,506	退職給付に係る負債	295,165
工具、器具及び備品	27,381	資産除去債務	31,553
土地	120,936	負債合計	2,118,720
リース資産	13,351	純資産の部	
無形固定資産	269,870	株主資本	3,368,375
ソフトウェア	247,445	資本金	2,721,514
ソフトウェア仮勘定	22,425	資本剰余金	618,777
投資その他の資産	601,573	利益剰余金	28,641
投資有価証券	425,253	自己株式	△557
長期貸付金	110,000	その他の包括利益累計額	3,019
繰延税金資産	79,328	その他有価証券評価差額金	△509
その他	117,187	退職給付に係る調整累計額	3,528
貸倒引当金	△130,195	純資産合計	3,371,394
資産合計	5,490,115	負債及び純資産合計	5,490,115

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(2021年12月1日から  
2022年11月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		4,850,869
売 上 原 価		3,028,407
売 上 総 利 益		1,822,462
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,608,440
営 業 利 益		214,021
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	2,311	
受 取 配 当 金	11,132	
違 約 金 収 入	5,400	
そ の 他	3,958	22,802
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	9,136	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	10,000	
そ の 他	17	19,153
経 常 利 益		217,670
特 別 損 失		
減 損 損 失	49,456	
事 業 構 造 改 善 費 用	29,851	
関 係 会 社 株 式 評 価 損	9,999	89,308
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		128,361
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	6,190	
法 人 税 等 調 整 額	△33,236	△27,046
当 期 純 利 益		155,408
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		155,408

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 貸借対照表

(2022年11月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	4,281,707	流 動 負 債	891,654
現金及び預金	3,200,281	買 掛 金	225,612
売 掛 金	732,244	短 期 借 入 金	50,000
有 価 証 券	99,995	1年内返済予定の長期借入金	260,004
商品及び製品	18,489	リ ー ス 債 務	6,347
仕 掛 品	3,980	未 払 金	192,780
原材料及び貯蔵品	11,018	未 払 費 用	107,563
前 渡 金	41,434	未 払 法 人 税 等	21,114
前 払 費 用	51,963	契 約 負 債	19,254
そ の 他	122,333	預 り 金	8,977
貸 倒 引 当 金	△32	固 定 負 債	1,177,898
固 定 資 産	1,183,800	長 期 借 入 金	721,657
有 形 固 定 資 産	176,176	リ ー ス 債 務	10,437
建 物	14,506	退 職 給 付 引 当 金	300,251
工 具、器 具 及 び 備 品	27,381	資 産 除 去 債 務	31,553
土 地	120,936	関 係 会 社 事 業 損 失 引 当 金	113,998
リ ー ス 資 産	13,351	負 債 合 計	2,069,552
無 形 固 定 資 産	269,870	純 資 産 の 部	
ソ フ ト ウ エ ア	247,445	株 主 資 本	3,396,464
ソ フ ト ウ エ ア 仮 勘 定	22,425	資 本 金	2,721,514
投資その他の資産	737,753	資 本 剰 余 金	620,675
投 資 有 価 証 券	425,253	資 本 準 備 金	620,675
出 資 金	32	利 益 剰 余 金	54,833
関 係 会 社 長 期 貸 付 金	145,000	利 益 準 備 金	11,061
破 産 更 生 債 権 等	14,868	そ の 他 利 益 剰 余 金	43,771
長 期 前 払 費 用	72	繰 越 利 益 剰 余 金	43,771
繰 延 税 金 資 産	80,886	自 己 株 式	△557
そ の 他	101,837	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△509
貸 倒 引 当 金	△30,195	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	△509
資 産 合 計	5,465,508	純 資 産 合 計	3,395,955
		負 債 及 び 純 資 産 合 計	5,465,508

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(2021年12月1日から  
2022年11月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売 上 高		4,294,949
売 上 原 価		2,503,195
売 上 総 利 益		1,791,753
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		1,577,373
営 業 利 益		214,379
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	898	
有 価 証 券 利 息	255	
受 取 配 当 金	11,132	
違 約 金 収 入	5,400	
そ の 他	5,304	22,990
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	7,012	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	10,000	
関 係 会 社 事 業 損 失 引 当 金 繰 入 額	20,092	37,104
経 常 利 益		200,265
特 別 損 失		
減 損 損 失	49,456	
事 業 構 造 改 善 費 用	29,851	
関 係 会 社 株 式 評 価 損	9,999	89,308
税 引 前 当 期 純 利 益		110,957
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	5,547	
法 人 税 等 調 整 額	△34,379	△28,832
当 期 純 利 益		139,789

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2023年1月13日

イーサポートリンク株式会社  
取締役会 御中

### 三 優 監 査 法 人

東京事務所

指 定 社 員 公 認 会 計 士 山 本 公 太  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 熊 谷 康 司  
業 務 執 行 社 員

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、イーサポートリンク株式会社の2021年12月1日から2022年11月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、イーサポートリンク株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
  - ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
  - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
  - ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
  - ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
  - ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。
- 監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。
- 監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2023年1月13日

イーサポートリンク株式会社  
取締役会 御中

### 三 優 監 査 法 人

東京事務所

指 定 社 員 公 認 会 計 士 山 本 公 太  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 熊 谷 康 司  
業 務 執 行 社 員

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、イーサポートリンク株式会社の2021年12月1日から2022年11月30日までの第25期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
  - ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
  - ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
  - ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
  - ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。
- 監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査役会の監査報告

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、2021年12月1日から2022年11月30日までの第25期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

#### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人三優監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年1月13日

イーサポートリンク株式会社 監査役会

常勤監査役 鈴 庄 一 喜 ㊟

監 査 役 大 西 洋 ㊟

監 査 役 白 石 真 澄 ㊟

(注) 監査役鈴庄一喜、監査役大西洋及び監査役白石真澄は、社外監査役であります。

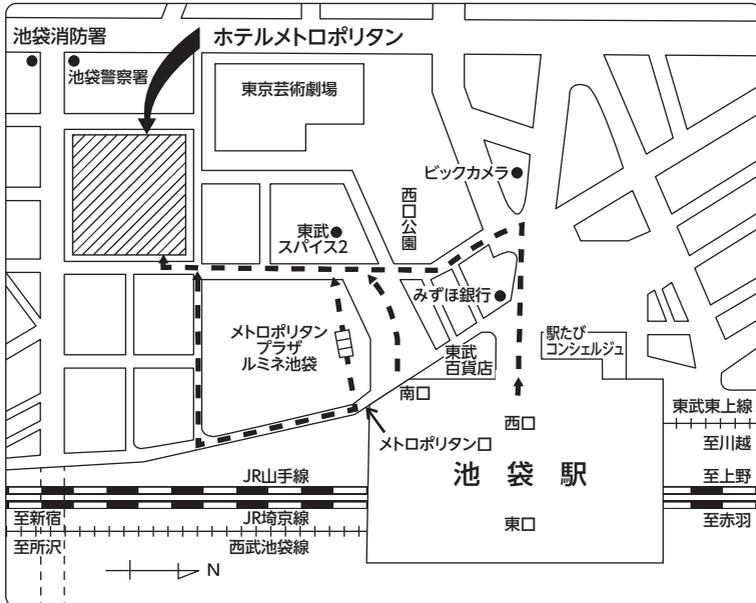
以 上





# 株主総会会場ご案内

- 会場 東京都豊島区西池袋一丁目6番1号  
ホテルメトロポリタン 3階「富士」の間  
TEL：03-3980-1111（代表）
- アクセス 池袋駅西口より徒歩3分  
池袋駅南口より徒歩2分  
池袋駅メトロポリタン口より徒歩1分



## <新型コロナウイルス感染拡大防止への対応について>

株主総会にご出席される株主様は、開催日現在の感染症の流行状況、株主様ご自身の体調をご確認いただき、マスク着用など感染防止にご配慮のうえ、ご来場くださいますようお願い申し上げます。



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。